

令和6年1月～3月期を基準とした景況感アンケートの結果について報告いたします。

(公表資料)

- ① 景況感の現況及び予想意見の概括
- ② 日田・玖珠地域景況感の総合集計表
- ③ 業種区分の説明
- ④ 日田・玖珠地域景況感推移表

2024年4月
日田信用金庫 業務部

景況感の現況及び予想意見の概括


令和6年1月～令和6年3月 調査

業種区分	前回 → 今回 → 予測	現況(1～3月)及び予想(4～6月)における特徴的な事項あるいは意見
農業、畜産	 →  → 	【全般】肥料や飼料代の高止まりに加えて運送コストの上昇を懸念する声もあり、先行きは不透明との回答が多かった。 (野菜)冬野菜の出来が良く豊作だったことが影響し、販売価格が低下し収益率が悪化した。肥料等のコスト上昇分の大部分を価格に転嫁できたと答えた事業者もあった。 (繁殖牛)仔牛価格が低迷していることに加え、飼料代も高値が続き収益悪化。
林業、製材、木製品	 →  → 	【全般】前回調査から一転して雨模様。材木価格や経費のコスト上昇分について価格転嫁が進んでいないことが要因。 (製材)新築住宅の向けの受注が減少傾向にあることが弱含みの要因となった。 (木製品加工)コスト上昇による収益悪化をカバーするため、新規取引先の開拓に力を入れ、販売量の確保に努めている。
製造業	 →  → 	【全般】人手不足により需要に対し供給量が追いつかない状況が続く。人材確保や物価高騰対策として賃上げを実施した事業者もあれば、前向きに検討しているものの現段階では実施に踏み切れていないと答えた事業者もあった。 (食料品・飲料品製造業)飲食店向けが堅調に推移。原材料費の高騰については現段階では価格に転嫁できている。4月以降は多くのイベントが予定されていることから好転の見込み。
建設業 生活関連工事業	 →  → 	【全般】資材の高騰や人手不足は続いているものの、安定した需要が下支えとなり堅調に推移。賃上げについては実施に踏み切れていないものの、物価高騰対策として一時的な手当を支給したと答えた事業者があった。 (建築)個人新築住宅の受注は減少傾向であるが、リフォームの問い合わせが増えている。住宅ローンの金利が上昇した場合の買い控えが不安材料。
エネルギー産業 (再生エネ・電気・ガス・石油販売)	 →  → 	(再生エネ)太陽光発電事業において、売電の出力抑制の増加の影響を受けた事業者が多かった。 (ガス・石油販売)仕入価格は高値で推移しているが、大部分は価格に転嫁できている。
運輸業	 →  → 	(物流)2024年問題への対応(台数の増大や人員の増員)に投資が必要だったが、結果的に次期は好転する見込みとの声もあった。
卸小売業	 →  → 	【全般】自動車販売業など季節的な要因にて堅調な事業者が全体を牽引。 (自動車販売)新卒者向けの需要が堅調。大手自動車メーカーの生産中止の影響がまだ続き、納期が遅延傾向と答えた事業者もあった。 (建築資材卸小売)期末に向けた工事の前倒しが多いため、次期は弱含みの見込み。 (土産品卸小売)ひな祭り等のイベントで比較的堅調に推移。
不動産業	 →  → 	【全般】引き続き堅調と答える企業が多かったが、住宅ローン金利の上昇を懸念する声もあった。
ホテル・旅館	 →  → 	【全般】インバウンド客は増加しているものの、国内旅行者が減少しており全体として弱含みと答える事業者が多かった。
飲食業	 →  → 	【全般】全体としては堅調に推移。季節的なイベントが増加しているほか、海外からの観光客が多かった。 (食堂・レストラン)海外からのお客様が増えた印象。 (酒類提供飲食店)週末の来店客は多いが、平日は少ない日が多い。
その他サービス業	 →  → 	【全般】季節的に需要の高い美容・理容業を中心に堅調に推移。人材確保のために賃上げを実施したと答えた事業者もあった。 (美容)新設備の導入により、次期は好転見込み。 (医療)インフルエンザやコロナの患者が前回調査時より増加。 (衛生環境整備)取引先は増加しているものの、人手不足を感じる。

好調



低調

マーク の 表示	現況DI指数
	30以上
	10以上 ~ 30未満
	0以上 ~ 10未満
	▲10以上 ~ 0未満
	▲30以上 ~ ▲10未満
	▲30未満